令和2年度（2020年度）

第3回伊丹市空家等対策協議会会議録（要約）

開催日時	令和2年（2020年） 11月19日（木）14時30分～16時30分
開催場所	市議会棟3階 議員総会室
議事 及び 議決事項	伊丹市空家等対策計画（第2次）の策定について（継続審議） ・第2回での意見集約及び事務局案の説明
会の成立	委員10名中9名出席 （伊丹市空家等対策協議会の運営に関する規程第2条第2項）
傍聴人	0名

会議出席者

委員 岡 絵理子（会長）	事務局
// 岩本 昌樹	都市整備室長 木村 哲也
// 岡本 英子	建築指導課長 北野 啓二
// 荻埜 敬大	生活環境課長 豊住 昭
// 三坂 友章	環境クリーンセンター
// 池田 勝昌	減量推進課長 小松 信一
// 竹内 彰	建築指導課主査 江崎 幸子
// 横山 一也	建築指導課主任 森田 浩史
// 大西 俊己	建築指導課 本條 裕起
	建築指導課 胡本 博識

事務局	<p><事務連絡></p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料確認 ・第2次計画策定スケジュール確認
会長	<p><会長挨拶></p> <p><会議録署名委員の指名></p> <p>※荻埜委員 三坂委員</p>
事務局	<p>前回協議会から変更している部分について項目ごとに説明します。</p> <p>「1. 空家等に関する対策の対象とする地区及び対象とする空家等の種類その他の空家等に関する対策に関する基本的な方針」について説明します。(2)の見出しについて、住宅土地統計調査のデータを使用していることから「空家」を「空き家」としています。図2、図3について、最新のデータを反映できないかということでしたが、図2、図3のデータは国勢調査の数値を使用しており、今年度国勢調査を実施していることから、平成27年のデータが最新です。(3)について、過去の振り返りが無いということでしたので、4年間実施してきた施策を表にまとめて記載しております。また、未解決通報案件の対応における実務上の課題として、「1.所有者等の連絡先が不明」「2.所有者等に資産保有、管理責任の自覚が不足」「3.建物の将来的な管理、活用方法の整理不足」があり、これらの課題に対し「効果的な対策を講じることを念頭に置き、計画策定を行う」としています。</p>
委員	<p>特定空家等と通報案件について、年度ごとの移り変わりを出すことが可能ですか。また、通報案件について、例えば小学校区ごとの分布を出すことは可能ですか。</p>
事務局	<p>年度ごとの移り代わりについては、これまでの協議会でお示しさせていただいております。分布に関しては、小学校区ごとでの集計は行っていないので、すぐにご提示することは難しいです。</p>
会長	<p>所在は分かるけど、分布図は作成していないということですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
会長	<p>今後の対応を考えるうえで、面的な傾向を知りたいところかと思えます。</p>
事務局	<p>GISの地図上でプロット数を見ることは可能ですが、具体的な場所を示す地図はお示しすることはできないため、小学校区単位など、大まかな分布をお示しすることが望ましい形かと思えます。</p>
会長	<p>今対応することは難しいと思えますので、4年後の見直しに向けてそういったデータを作っていただくということでもよろしいでしょうか。</p>
委員	<p><異議なし></p>
委員	<p>主な実務上の課題はどのような分析に基づくものでしょうか。</p>
事務局	<p>実際に数字を出しているものではありませんが、これまで担当者が現場</p>

	<p>で感じていることなどありまして、なかなか解決に至らない事例及び特定空家等の傾向を抽出したものです。</p>
委員	<p>3つの課題の表現に関して、「自覚が不足」「整理不足」と書かれると、行政の主観をぶつけることになりしますので工夫が必要だと思います。</p>
会長	<p>「管理、活用方法の整理不足」の「整理」とはどういった意味でしょうか。</p>
事務局	<p>例えば、売りたいのか持っておきたいのかが曖昧な状態で、今お金を投資しても無駄だという発想に至ることがあります。将来どういった資産運用をしていくのかの計画を立てられれば、解決の糸口に繋がるだろうという思いをもって、記載しております。</p>
委員	<p>2番目の課題については、所有者は遠方に住んでいる、高齢である、または仕事が忙しいなどで管理ができない状況の課題をわかりやすく記載すればよいと思います。</p>
会長	<p>空家等全体に対しての課題ではなくて、どうしても解決できない3つの課題ということだと思いますが、そのように読めないということですね。「実務上の課題」がわかりにくいいため、「解決に向けての課題」として、「解決できないものは、この様な課題です」と言うようにした方がよいと思います。</p>
委員	<p>2番目、3番目の課題については主観が入っていると思いますので、客観視した表現に工夫すべきと考えます。また、未解決通報案件に対してヒアリングを行って、これらの課題について承諾が取れるのであればよいと思いますが、現段階の分析という観点で考えれば表現を工夫した方がよいと思います。</p>
事務局	<p>「管理責任の自覚が不足」というと感覚的なものになるので、「管理責任の不足」と表現するのも一つと考えます。</p>
委員	<p>「自覚が不足」という、行政が決めつける表現はおかしいと思います。相手の方がどう思うかは別問題ですが、自覚が足りないことが「見受けられる」や「散見される」などで、事務局が感じた表現に改めることがよいと考えます。「整理が必要である」といった表現にすると、今後の対策について書いていることになりしますので、現状の実態について問題点を指摘する表現として「見受けられる」「散見される」という表現として、決めつけをやめるべきと考えます。</p>
会長	<p>体言止めを避けるだけでも印象が変わるので、伝えたい内容が伝わるように言葉を修正するということがよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>そもそも、この表現が適切か否か判断できる根拠となるものが手元にないことで、表現が悩ましくなっているため、簡略化した資料でいいので用意していただいて、適切か否かの検討ができるようになればよいと思いま</p>

会長	す。 担当されている方にとっては、こういった表現にならざるを得ない部分があり、それを統計的に言うことは難しいと感じております。 表現については修正していくこととします。 それでは次の項目の説明をお願いします。
事務局	「2. 計画期間」については、8年間の計画期間とする中で4年目に中間検証すべきというご意見を頂きましたので、「4年目に当たる令和6年度に進捗状況を検証し、必要に応じて見直す。」という内容を追記しております。関連計画との関連性をわかりやすくすべきという意見も頂きましたので、図を追加しております。また、本市の第6次総合計画と同じ8年の計画期間であること、4年目に中間検証を行うことを示した図も加えております。
会長	中間検証について書き込んでいただくことをお願いしておりましたので、その点については書いていただけたと思います。 この内容でよろしいでしょうか
委員	<異議なし>
会長	それでは次の項目の説明をお願いします。
事務局	「3. 空家等の調査に関する事項」については、空き家の実態調査を全く行わないと認識されかねない表現となっておりましたので、「必要に応じて実施する」という表現にしております。
会長	先ほど話に挙がった地図ができたときに、市域全域でなくても、必要な地域で調査を行うということもあっていいと思います。 この内容でよろしいでしょうか。
委員	<異議なし>
会長	それでは次の項目の説明をお願いします。
事務局	「4. 所有者等による空家等の適切な管理の促進に関する事項」については、対策①の文が長く読みにくいというご指摘がありましたので、文を区切って表現しております。対策②について、内容が複数ある部分については箇条書きとしております。また、対策③について、「権利関係の整理等」を追記しております。
会長	この内容でよろしいでしょうか。
委員	<異議なし>
会長	それでは次の項目の説明をお願いします。
事務局	「5. 空家等及び除却した空家等に係る跡地の活用の促進に関する事項」については、「(3)空家等の活用に関する調査研究」に「空家等の有効活用を支援することで、既存住宅の流通を促進する。」を追記しております。
会長	これは指摘があったものでしたか。

事務局	事務局の判断で追記しております。 これまで住宅部局で、新築物件に対して転入促進事業を行ってまいりましたが、これから予算を計上するため決定事項ではございませんが、来年度以降は少しでも流通に乗せるため、中古物件の購入者に対してリフォームの補助を行う検討をしています。
会長	空き家の活用に限ってということですか。
事務局	築 20 年以上経過している物件で、半年以上空き家であることを条件に、最大 150 万円程度の補助を行う検討をしております。
会長	自家用に対してですか、賃貸に対してですか。
事務局	中古物件を購入した人への補助です。
会長	空き家を所有している人が、水回りをリフォームして売却に出したり、賃貸に出すこともあれば、放置されている祖母の家に自分が住むためにリフォームすることもあります。今回は、中古物件として流通しているものを、自分のライフスタイルに合わせてリフォームするということでしょうか。
事務局	はい。中古の物件を購入して活用する方々を対象としています。
会長	これは空き家の活用になりますか。
委員	参考になりますが、兵庫県が「空き家活用支援事業」として、県費の補助金を出すという枠組みの事業があり、それを活用した先行事例として、芦屋市、川西市、尼崎市などが既に制度を持っておりまして、実績として芦屋市は年間 1 件、川西市は 4 件、尼崎市は 5 件あります。対象としては、市外からの転入をはじめ、世帯分離された方、賃貸に住まわれている方が購入する場合もありますが、空き家を取得して、そこへ改修して住もうという方を対象に補助金を出します。その空き家が流通することを促進します。
会長	買う方がお金を出して改修することは、空き家バンクではよくあることです。
委員	売りたい方からすると、手を付けずに売却できる可能性が広がることはありがたいですね。
委員	買う方からしても、ライフスタイルに合わせて好きなように改修できるメリットがありますね。
委員	情報提供ですが、所有者側の立場に立つと、広島県三原市で内部動産の整理の費用を、空き家バンクへの登録を条件に一部補助し効果があったという事例があります。
会長	この内容でよろしいでしょうか。
委員	<異議なし>
会長	それでは次の項目の説明をお願いします。

事務局	<p>「6. 特定空家等に対する措置その他の特定空家等への対処に関する事項」において、特定空家等に対する助言・指導、勧告、命令の措置を進める基準を示してはどうかという意見について、基準を示すことは難しいのですが、期限について「(3)特定空家等の行政代執行までの流れ」に「措置に対する期限は3カ月を基本とし、改善内容により判断するものとする」という内容を追記しました。また平成28年に伊丹市空家等対策計画を策定した時点からあった、特定空家等の判断材料である判定表を資料編に掲載し、表6-1の「*1」にその旨を追記しております。「*3」についての猶予期間は、本文と内容が重複するため削除を考えております。</p>
会長	<p>「*3」は表の注釈なので残した方がいいと思います。</p> <p>3カ月という期間が適切かどうかということについてはいかがですか。</p>
事務局	<p>事務局として動きやすい部分がありましたので、暫定的に3カ月としました。除却になると3カ月では足りないこともあるとは思いますが、6カ月や何年もすると我々の動きが手薄となるため、厳しめの設定をしております。また、全ての特定空家等に対して3カ月で措置を進めるというわけではありません。</p>
委員	<p>期間を2か所書くのであれば、「猶予期間」と「期限」を統一していただきたいと思います。意味的に正しいのであれば、猶予期間にさせていただきたらと思います。</p>
会長	<p>本来すぐに対応してほしいところですが、3カ月は様子を見てあげるという意味合いですね。</p>
委員	<p>半年だと長いでしょうし、どこかで切るとしたら3カ月かなと理解しました。</p>
委員	<p>判定表については議論する場はありますか。</p>
会長	<p>今回作成したものではなく、既に出来上がっているものですので、議論はしないものと考えています。</p>
事務局	<p>判定表は計画策定時に協議会で議論いただき構成したものです。</p> <p>項目については、「『特定空家等に対する措置』に関する適切な実施を図るために必要な指針(ガイドライン)」に準拠しており、この項目に沿って現地調査を行います。ABC段階についてはそれぞれ「問題なし」、「要経過観察」、「特定空家等」で、判断基準を過去の協議会で調整させていただきましたが、実績が少なく決められなかったため、伊丹市空家等対策推進委員会という課長級職員の会議で判断していこうとしたものです。</p>
委員	<p>市民がこの判定表を見ても、どういった基準で「問題なし」なのか、「要経過観察」なのか「特定空家等」なのかわからない。事例が少ないから公表できないということだと思いますが、そうだとすると判定表をブラッシュアップする時期なのかと思います。</p>

事務局	<p>特定空家等の判断については、推進委員会でも、すぐに対応できるのかどうか、道路側に寄っているのかどうかなど、事象ごとに5課の意見を調整して判断している状況です。これまで特定空家等として認定してきた19件も、全てが指標としてできるようなものではないため、今後も現地の状況と判定表を照らし合わせて、事象ごとに個別に判断していく必要があると考えています。</p>
委員	<p>判定会議の中で、主観が入るのは危険な部分があると思います。できる限り指標は客観化すべきと考えます。そういった指標を持っている近隣の市町がないか今後調査して行って、方法の見直しを考えていくべきと考えます。</p>
会長	<p>その場の立地、状況、オーナーの様子などを勘案して、対応されている中で、それを公平的、客観的にと言うのは難しいと思います。</p>
委員	<p>オーナーの状況は主観であるため、判断の指標に入れていいのか疑問です。</p>
会長	<p>なにか改善が必要なもの全て特定空家等としている市もあって、解釈が市によってバラバラです。特定空家等ですよと言うことを、所有者につけつづけることの重要性は、特措法上あまりないと私は解釈しています。伊丹市の場合、特措法を使わないような形で改善していただくことの重要性があって、こういったことになっていると思います。</p>
委員	<p>所有者の意向や、経済事情などを考慮した判断はよくないと思います。</p>
会長	<p>そうではないと思います。</p>
委員	<p>それが市民にとってはわかりません。この計画を読んだだけでは、数字的な基準などが読み取れません。</p>
委員	<p>一律的な数値を決めることは難しいと思います。裁量をどこまで認めるのか、客観化して固めてしまうのか、そういった議論だと思いますが、個人的には客観化する方の不都合が大きいのではないかと思います。</p>
会長	<p>掲載することに意味がないのであれば、掲載しないということもあるかと思います。</p>
委員	<p>掲載することは、少なくともこういったもので判断していることがわかるので意味はあると思います。</p>
会長	<p>ボーダーがない中で、それほど悩まず判断できるものを特定空家等としているのですか。</p>
事務局	<p>状況によって緊急度が違うということがあり、切迫性を評価しながら、事例収集はしていく必要があると感じているところです。それを市民へ示すということについては、「こう書いているのになぜ特定空家等なのか」ということに繋がるので、国土交通省から基準が示されて、例えば家屋被害調査の指標で、ここまでいけばこういったことをしてください、というよ</p>

	<p>うな全国的な指標があれば動きやすいですが、今の段階ではこの判定表を示すことが、事務局としては精一杯と考えております。</p>
委員	<p>今後、この判定表を改定していく必要があるかどうかの話であって、この判定表を見ただけで ABC のどれになるかがわかりにくいので、段階的な表現を付け加えることは、事例が少なくてもできると考えています。</p>
会長	<p>どういった場合に使うことを想像していますか。空き家を所有している人にとってということですか。</p>
委員	<p>所有している人もそうですし、実務される方にとっても目安になる指標がないと思います。</p>
会長	<p>何にとつての指標ですか。</p>
委員	<p>判定表の ABC のどれに当てはめるかです。</p>
会長	<p>伊丹市では A が何個あるからどうかというやり方はしていません。市によっては、A 何個以上でと言うやり方もあります。すごく広い敷地の真ん中に古家があって、それを周りの人は誰も知らないところで崩れても、特定空家等に認定することには全く意味はありません。道に面している建物が隣に寄りかかっているものは、壊れてはいないけれど早く対応する必要があります。ですので、ケースバイケースになることかと思ひます。</p>
委員	<p>この表を見たときに、どの分野の判断なのかが、後に分析してもわかりません。</p>
会長	<p>判定の視点はあつるけれど、A が何個あるから特定空家等ですよと言うやり方はしてないため、事務局は判定表を出し渋っていたのだと推測しています。</p>
事務局	<p>そのとおりです。どういった指標で見ているのかと市民の方から聞かれれば、国土交通省のガイドラインを一つの要素としてみているということをお伝えすることで足りると判断しております。ですので、判定表は職員現場調査メモという位置づけで考えております。</p>
委員	<p>わかりました。今後事例の収集等によりブラッシュアップをお願いいたします。判定表を活用し、事情を総合的に判断して決定しているというような、今あつたような説明を記載したほうがよいと思ひます。</p>
委員	<p>判断の方法は 6. (2) にありますので、書くとなればもう少し丁寧にすればよいかと思ひます。</p>
事務局	<p>6. (1) で「所有者等や周辺住民の事情、悪影響の範囲と程度、危険等の切迫性」という要素を示していますので、それを具体的にするとついうご意見かどうかが議論いただけたらと思ひます。</p> <p>措置の判断基準と特定空家等の判断基準を書き分けているので、(1)、(2) どちらにもかかってくることかと思ひます。</p>

委員	(1)に書き込むとすれば、(2)にも書き込むことになると思いますが、その必要はないかとも考えています。
委員	まず、特定空家等になるかどうかが先で、措置を考えるのが次ですので、順番が逆ではないでしょうか。
会長	特措法の書き方がこうなっているのですよね。
事務局	基本的な指針があり、まず措置に関する考え方を記載しております。次に、それを具体的にどういった流れで判断を行うかを記載しております。
会長	私はこのままでもいいのではないかと考えておりますが、こうした方がいいというのはありますか。
委員	(1)は表6-1のどの部分になりますか。
事務局	空家等を現地で確認し、特定空家等の判断を行い、最終的に措置につなげていくという流れです。 6(1)の「・・・基本原則とした上で、」までは全体に通じる考え方ですが、「措置を講ずる必要がある場合には・・・」の部分は、表6-1の下半分での話です。述べている性質が異なるので、わかりづらくさせているのかと思います。
委員	特定空家等の判断と措置に対する判断に重なる部分があり、措置に至るものを特定空家等に認定するということですね。
会長	「措置を講ずる必要がある場合は」と書きつつも、措置を講じる必要があるものを認定していて、おかしいことになっていますが、運用の実態と特措法の書きぶりが異なっていることは、他の市でも起きています。
委員	それであれば、書きぶりは現状のままでいいと思います。
委員	「措置に対する期限は基本3カ月」というのは、特定空家等の判断から助言・指導、助言・指導から勧告、勧告から命令の間ということですか。
事務局	特措法上、指導・助言、勧告、命令が措置にあたります。我々が相手方に発意してから3カ月の猶予期間という意味です。
委員	措置という言葉の使い方を適切にしないと、どのことを話しているのかわからないと思います。
会長	助言・指導をしてから、3カ月たっても改善されなければ勧告ということですか。
事務局	指導の後に再度指導の場合もあります。
委員	それであれば(1)の内容は(2)の後かと思います。国が示したものをそのまま使わないといけないわけではないと思います。
事務局	(1)では個人財産であることを示しながら、近隣住民へ迷惑をかけているものについては行政の規制がかかることを伝え、(2)では特定空家等の判断にかかる市役所の体制を、(3)では法律体系的に踏み込んだ流れを伝える構成としていますが、順番を示しているものではありません。

委員	(1)は「特定空家等に対する措置の考え方」ではなく「特定空家等への対処に関する考え方」ということではないでしょうか。
事務局	(1)は措置に至るまでの判断を示したかったものですので、措置の考え方を記載しております。
委員	中身とタイトルについては整理の余地はあると思いますが、このままでもやむなしかともいます。
委員	4年間使い続けるわけですので、表現は考える余地はあると思います。
会長	考える余地はあるとは思いますが、根本的に書き直したり考え方を変えるというのは難しく、第2次計画ですので今の計画のうえに立った改定をしていきたいと思っております。
委員	わかりました。ただ、「慎重に」と言うのは、何を考えて慎重に判断を行っているのかは明記してもいいと思います。法律上は倒壊等の危険があるかどうかであって、管理状況や周辺住民の事情などは要件となっていません。
事務局	先ほど会長もおっしゃっていたように、その物件だけをみて倒れそうであっても、大きな敷地で近隣が全く困っていないものもありますし、所有者が少しずつ改善させているものと、全く放置されているものでは違うと考えており、行政としてはそういった部分も判断要素に入れておく必要があると考えています。
会長	危険なものだけが特定空家等に判断されるというのは間違いで、景観的な側面もあります。また、措置は壊すだけではなく、色を塗りなおすことも措置に入ってきます。
会長	今のままとしようと思いがいかでしょうか。この課題を根本的に解決するには、特定空家等とはどう規定するのかということに立ち戻ることになります。前2回の会議のこともありますので、そこまで立ち戻りにくいところです。
委員	この表現が、現状とあっているかどうかはわからないから、現状にあった分析を表現すべきです。
委員	むしろ現状にあわせているから、法律とあわないのではないのでしょうか。特定空家等の判断と措置の判断は違うものですが、実質的には一緒にやっているところを分けて表現しにくいのではないかと理解していますので、このままでよいと思います。それが法律の運用としてどうかについては、ここでやるべき議論ではないことだと思います。
委員	法律どおり書くことも重要ですが、ここでギシギシに縛っても、後になってどうしようにも対応できない案件が出てきますので、この位の書きぶりがいいと思います。
会長	他にご意見はよろしいでしょうか。

委員 会長	<p><異議なし></p> <p>それでは、多数の委員の意見を採用し、この部分についてはこのままということにします。</p>
事務局	<p>次の項目の説明をお願いします。</p> <p>7から9までまとめて説明します。</p> <p>「7. 住民等からの空家等に関する相談への対応に関する事項」については変更ございません。</p> <p>「8. 空家等に関する対策の実施体制に関する事項」については、ご意見頂いていた「福祉」と書いていた部分を「衛生」としております。</p> <p>続いて「9. その他空家等に関する対策の実施に関し必要な事項」については、PDCA サイクルにおいて、いつ何を検証するのかを示してはどうかというご意見がありましたので、その旨を具体的に示しております。</p>
会長	<p>PDCA サイクルについては、最低限これについては回していくという宣言を頂いたと捉えたいと思います。</p>
委員	<p>7(1) 相談窓口では「窓口を一元化する」とあり、(2) では「関係部局間での連携を図り」と、相反することを書いているように思いますが、窓口を一元化するのであれば、窓口を記載しないと市民が見てもわからないのではないかと思います。</p>
事務局	<p>現計画には窓口を記載していたのですが、組織改正等が生じますので、窓口等を記載した別紙を用意することにしていきます。計画には課名の記載はやめて、HP 等でこの別紙を周知していけたらと考えております。</p>
会長	<p>相談体制と言うのは、相談がさらに進んだときの話でしょうか。</p>
事務局	<p>市民が電話する場所を一つにし、相談内容に応じて割り振って、連携しながら対応をしていくというものです。</p>
会長	<p>ここまで、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p><異議なし></p>
事務局	<p>「お家の Life Plan」についてご意見頂いた部分の説明をさせていただきます。</p> <p>「<目的>」で、兵庫県の冊子の紹介の部分について、QR コードの掲載を検討しています。「4.お家と私との歩み」では、確認申請の書類や契約書等の保管場所を記載できるようにしています。また建物の修繕履歴等を書く欄を増やしております。6 の「◆お家の将来を考えて、家財等の整理をしていきましょう!」では、記載できる量を増やし、いつまでに整理するという目標を記載できるようにしました。また、片づけに関する専門家もいるという事でしたので、県の冊子の内容を記載しております。</p> <p>次に、前回協議会で、セミナー・フォーラムのアンケート結果を計画に掲載してはどうかという意見がありましたが、計画の資料編に載せるのか、</p>

	<p>母数が少ないため計画に掲載するのは見送る等の判断にするのか、最後にご議論いただけたらと思います。</p>
会長	<p>それではまず「お家のLife Plan」についてですが、4について、「植樹・剪定」よりも「設備更新」の方がいいと思います。</p>
委員	<p>6について、「《整理していききたい家財等リスト》」で、「家財」の例として「仏壇」や「神棚」と記載するのは、見る人によっては嫌な気分になると思います。</p>
委員	<p>順番を後の方にすればいいと思います。</p>
委員	<p>「財産の権利書」は処分するものではないので、消した方がいいと思います。</p>
会長	<p>挿絵を工夫して、例を書かないこともあってもいいと思います。</p>
委員	<p>1について、「◆私自身のこと」で、相続の時に年金の手続きが必要なので、年金番号や年金手帳の場所等を記載できるようにしてもよいと思います。ただ、お家のことだけを記載する趣旨であればなくてもいいと思います。</p>
会長	<p>最後の「話し合った内容等」を「その他伝えたい内容」や「言い忘れた事」として、そこで自由に書いてもらえばいいと思います。</p>
会長	<p>最後にアンケート結果についてですが、次のセミナーを考えるうえでの内部資料として扱うか、計画に載せて動向を知らせることに使用するか、ということになりますが、どちらにしましょうか。</p>
委員	<p>資料的な価値としては、まだ母数が少ないかと思います。</p>
会長	<p>今後のセミナーを市民の皆様に役立つものとするための材料としてもらうということでよいでしょうか。</p> <p><異議なし></p> <p>他、今気づいたことなどありませんか。</p>
委員	<p><異議なし></p> <p>これから、最終の修正をかけて仕上げていきたいと思いますが、後は私に一任していただけますか。</p>
委員	<p><異議なし></p>
会長	<p>それでは、本日の会議は以上とさせていただきます。</p>
事務局	<p><事務連絡></p>

署名人
伊丹市空家等対策協議会委員

委員 荻埜 敬大

委員 三坂 友章